

令和5年度(令和6年度実施)事務事業評価

事業整理番号	1101	- 21
--------	------	------

事務事業名	SDGs達成の担い手育成事業	担当組織	教育部	庶務課
-------	----------------	------	-----	-----

事業特性									
	事業開始年度	3年度	事業終了年度		計画／一般	計画	計画事業No.	4	4 - 2 - 1
	単独／補助	区単独事業	運営形態	直営	関連するSDGsゴール				
事業を構成する予算事業	①	SDGs達成の担い手育成事業			②	1～17すべて			
	③				④				
	⑤				⑥				

政策体系(令和5年度基本計画)				
地域づくりの方向	子どもを共に育むまち	政策	家庭と地域の教育力の向上	
施策	地域と学校の連携・協働の仕組みづくり【重点】	政策番号	4-4-2	
関連する個別計画		計画策定年度		計画期間

1. 事業の概要・指標の達成状況									
(1)実施の対象(具体的に記載)	学校、児童、生徒、教職員、保護者、地域								
(2)事業の目的・期待する効果	未来を担う子どもたちが持続可能な社会の担い手となるよう、SDGs達成に向けた教育の充実を図るとともに、学校と保護者・地域・企業などが連携した取り組みを推進・発信し、持続発展都市の実現を目指す。								
(3)事業概要	区立学校が各校の特色を生かしながら保護者・地域・企業・大学などと協働でSDGs達成に向けた取り組みを行うことで、子ども、大人もともに、世界の問題、地球規模の目標を自分たちの課題ととらえ、「自分ごと」化し、行動に移す人材を育成する。								
(4)目標の達成状況	5年度の取組内容 5年度に実施した具体的な業務内容	○小中学校全30校によるSDGs達成に向けた取り組み ○学校SDGs推進アドバイザー等による学校支援 ○SDGsフェスティバル、SDGsチャレンジウィークによる取り組み発信							
	成果指標 事業目標の達成度	成果指標	目指す方向性	単位	4年度(実績)	5年度(計画)	5年度(実績)	(達成率)	6年度(計画値)
	①	「学校で子供たちと一緒に取り組んでみたいか」に肯定的な回答割合	↗	%	96	95	77	81.1	95
		「SDGsへの興味・関心が高まったか」に肯定的な回答割合	→	%	98	98	93	94.9	98
	指標の説明	①SDGsフェスティバル観覧者アンケートにおいて「学校で子供たちと一緒に取り組んでみたいか」に「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答した割合②同アンケートにおいて「SDGsへの興味・関心が高まったか？」に「高まった」「やや高まった」と肯定的に回答した割合							
(5)取組実績	達成状況	未達成	未達成または一部未達成の理由	子どもたちがフェスティバルでSDGsの取組みを発表することで、SDGsの普及・啓発につながったが、見ている保護者や大人の方にも自分事としてとらえていただくには、もう少し工夫が必要であった。					
	活動指標	活動指標	目指す方向性	単位	4年度(実績)	5年度(計画)	5年度(実績)	(達成率)	6年度(計画値)
	①	取り組み学校数	→	校	30	30	30	100.0	30
		SDGsフェスティバル開催回数	→	回	1	1	1	100.0	1
	指標の説明	①SDGs達成の担い手育成事業に取り込む区立学校数②芸術文化劇場で学校の取り組みを発信するSDGsフェスティバルの開催回数							
	達成状況	達成	未達成または一部未達成の理由						

2. 事業費の推移									
単位		4年度		5年度			6年度		
〔金額の項目:千円 人数の項目:人〕		予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減 (R5決算比)	
事業費		A	48,030	37,278	16,800	11,743	69.9%	17,284	5,541
財源内訳	国、都支出金	B	0	0	0	0		0	0
	使用料・手数料		0	0	0	0		0	0
	地方債・その他		0	0	0	0		0	0
	一般財源	C=A-B	—	37,278	—	11,743		17,284	5,541
正規職員人数※小数点第1位まで		0.3	名	0.5	名		0.5	名	
会計年度人数※小数点第1位まで		0.0	名	0.0	名		0.0	名	

3. 総合評価及び令和6年度以降に向けての対応・改善策

(1)令和5年度成果と課題	【指標の達成状況(a)】 →S、A、B、C、Dの5段階で評価	B	根拠	活動指標としては目標を達成したが、保護者やフェスティバルを観望していただいた方もSDGsを自分事化してもらう工夫が足りなかった。		
	※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。 ※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。					
①目標に対する成果状況を踏まえた課題 観覧している保護者や地域の人たちにもSDGsを自分事化してもらう工夫を検討する必要がある。						
②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果) SDGsの取組みを通して、学校と地域の人たちが連携して事業を実施する風潮が醸成されてきている。						
(2)業務(事務)改善にむけての取組み	【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】 S、A、B、Cの4段階で評価 →	A	根拠	教育部の全課で担当校を決めて、各学校からのニーズにきめ細やかに対応を行っている。		
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。					
	①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲) 観覧している保護者や地域の人たちにもSDGsを自分事化してもらう工夫を検討する必要がある。					
	②現状の実施状況における所管課の認識					
	事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択した理由	「有」の場合は対応策も記載。		
	直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択した理由	専門性、効率性を考慮し、外部人材の活用や外部委託を行っている。		
	サービスに係るコストは適正か	適正	選択した理由	必要最低限の経費で実施している。		
	統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	有	(有の場合)事業名	コミュニティ・スクール導入等促進事業		
	③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況					
	対応、改善を既にを行った	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置	
はい・いいえどちらも (はいの場合は更なる対応・改善の予定)						
対応、改善の予定	有	無	対応、改善の予定がない理由			
有	対応、改善の内容	SDGsフェスティバルの実施をやめ、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる仕組みであるコミュニティスクール活動との統合を検討。		予定時期		
	予算措置	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討		
			予算措置を伴う理由			
				R7		
(3)必要性/優先度	【区が実施する必要性(c)】 S、A、B、Cの4段階で評価 →	A	根拠	子供達が、地域の企業、大学、区民ひろば、商店街、消防団などと協働することで、SDGsを肌で感じ学ぶだけでなく、地域との繋がりを形成するものとしての役割も果たしているため。		
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。					
	①区が実施する理由(複数選択可)					
	☐ 区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	☐ 法律の要請を受けて行う事業である。				
	☐ 民間事業者等に同様のサービスがない。	☒ その他(理由) 豊島区はSDGs未来都市としての責務がある。				
	②区民ニーズ					
	区民ニーズを表す指標	無	有	指標番号(成果)	指標番号(活動)	サービス利用者数
				推移	推移	
	有・無どちらも					
	区民ニーズに対する認識	温暖化や気候変動を始めとした地球環境における深刻な課題など、世界全体が共有する危機感が高まっている。SDGs未来都市である豊島区は、子どもの未来のためSDGsに取り組み、持続的な社会を築くために重要な役割を果たすことが期待されている。				

総合評価(d)=a+b+c

ランク2

4. 【前年度事務事業評価対象事業のみ】改善に向けた取組内容について			
(前年度事務事業評価表) 4「所管課の認識・R5年度以降の対応」を記載	本事業を通して、地域とともにSDGsに取り組むことで、これまで以上に地域とのつながりが深まり、それぞれの学校で特色ある教育を展開することができている。地域に根差した取組の実践により、子どもも大人も一緒になってSDGs達成に向けて行動を起こすことに繋がっている。2年間で立ち上がった活動を一過性のもので終わらせることなく、学校と保護者、地域、大学が協働で活動し続けられるよう、取組を継続していく必要がある。なお、令和7年度で全小中学校のSDGsフェスティバル出演が達成されるため、令和8年度以降の啓発、発信方法については改めて検討していく。		
上記の改善に向けて取り組んだ内容を記載(未着手の場合には理由を記載)	令和7年度までに全小中学校でSDGsフェスティバルを開催する予定だったが、令和6年度に全小中学校でフェスティバルを開催するよう準備を進めている。また、学校と保護者、地域、大学などが共同で活動が続けられるよう、これらの活動をコミュニティスクールの活動の中で継続していきけるようコミュニティスクール推進ガイドラインの改定に着手している。		
改善に向けた取組内容についての自己評価 (e)	予定以上に進んだ	根拠	当初の予定より1年も前倒しして進めているため。

5. 令和6年5月末時点の状況	
①令和6年度当初の課題・ニーズ	SDGsの活動を通して、学校と保護者、地域、大学などが協働で一緒に様々な取組を行う機運醸成していくこと。そして、子どもたちを取り巻く様々な課題を解決していくこと。
②国・都の動き(関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など)	豊島区は内閣府より令和2年7月「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定。
③令和6年度の方向性・取組方針(事業展開)	・立ち上げ期と位置づけた令和3・4年度は学校と保護者、地域などが協働で取り組むための基盤を築いた。 ・令和5年度、6年度は推進・発展期と位置づけ、各校の地域に根差した特色ある取組の充実・定着を図る。 ・「SDGsフェスティバル」と学校での「SDGsチャレンジデイズ」で情報発信を継続することで、SDGs達成の機運醸成を図る。 ・こうした活動が継続的なものとなるよう、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる仕組みであるコミュニティスクール活動との統合を検討。
④令和6年度の事業進捗状況	・各学校は、SDGsの取組について教育課程に位置付け、教科指導等との関連付けを図り、取り組んでいる。 ・今年度SDGsフェスティバル出演校12校(10校、2園)は、発表内容を地域の方々とともに企画・検討を始めている。
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	・SDGsフェスティバル来場者アンケートでは、子どもたちの取組みが伝わったと回答した方が90%超、SDGsへの興味・関心が高まったと回答した方も90%を超えているなど、SDGsへの関心の高まっている。
⑥上記⑤に対する対応	・引き続き教育委員会は、各校の特色を生かした保護者・地域・企業・大学などとの協働によるSDGs達成に向けた取組みを支援する。

-----以降の項目は、評価内容を踏まえて管理職が記載してください-----

今後の事業費予算要望（f）	現状維持	根拠	これまで培った地域の方々との連携した事業を継続的なものとするため。
今後の事業の方向性（d+e+f） （現状の評価および施策評価を踏まえた評価）	B	※eは該当の事業のみ加味	
上記判断と今後の事業の方向性を踏まえ、令和6年6月以降に向けての対応を記載（改善方法、課題への対応など）			
これまでのSDGsの活動を通して培った学校と保護者、地域、大学と連携した取組みについて、今後も継続的な活動としていくため、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる仕組みであるコミュニティスクール活動との統合を検討していく。そして、子どもたちに更なる経験や体験をしてもらえるよう地元企業と学校がよりスムーズに連携ができる仕組みを検討していく。			